

# ついに 待望のプロジェクトが始動！

## 産学連携推進委員会が発足！

企業会員の卓越した技術・機器・システム（シーズ）が  
医療ニーズの最前線に結びつく



深柄理事長より

「アカデミアと企業のメンバーからなる本学会のありようが「産学連携」であることは言うまでもありませんが、これまで力を合わせて新しい医療テクノロジーの開発ができていたでしょうか。人が誰しも願ってやまない「健康」を支え、「病」を治す新しい医療機器・システムを手を取り合って作り上げるという学会設立時からの目的を果たすため、今、産学連携推進委員会が発声をしたのです！

---

イラストのCとSはそれぞれC系会員とS系会員を表す。

C系会員とは、企業の社員等および関連団体職員のこと。S系会員とは、C系会員以外の正会員。

# 日本医療機器学会 産学連携推進委員会 (J-SANGAC)

JSMI Strategic Alliance for Networking and Globalizing Academia-Industry Committee

日本医療機器学会では、かねてから各委員会で取り組んでいた産学連携事業を推進するために、産学連携推進委員会を立ち上げることになりました。御存知の通り医療系学会の構成員は、病院等へ勤務する医師、看護師、臨床工学技士、滅菌技師（士）など医療スタッフが主となりますが、日本医療機器学会では、医療機器メーカー、医療機器販売などの企業に所属する会員が半数を占める類まれな学会です。そのような既に産と学が常日頃から密接に関係している学会であるからこそ、今まではそのような意識をせずに自然発生的に産と学が連携してまいりました。その結果当学会においては、産と学が連携する仕組みがありませんでした。一方、学会員が所属している全国の教育機関では、産学連携の仕組みが充実し、また国や自治体、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による産学官による連携も大に行われています。そこで、素晴らしい技術（いわゆるシーズ）を持ち合わせている本学会の企業様と現場で毎日業務改善（いわゆるニーズ）に取り組まれている医療スタッフを結びつける仕組みづくりを深柄理事長より本委員会に託され、昨年10月より活動を開始いたしました。本パンフレットでは、産学連携推進委員会について、そして今後の活動予定についてお知らせいたします。今後本学会において、さらなる産学連携が推進されるよう委員会一同全力で尽くしてまいります。

## 委員会の目的

### 日本医療機器学会の強みを活かした会員に貢献する産学連携の推進

#### 短期目標

1. シーズ・ニーズマッチングデータベース構築
2. 企業会員とアカデミア会員交流の場の設置
3. 啓発シーズモデルの推進
4. 産学連携相談窓口の開設
5. 各委員会で進行中の産学連携のサポート

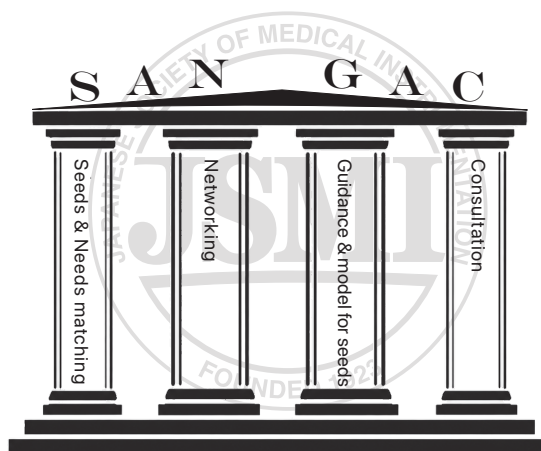
#### 中期目標

1. 産学連携アドバイザーの育成
2. 産学連携助成金の拡充

#### 長期目標

### VISION 2045

今後20年以内に全く新しい発想に基づいた新規医療機器やシステムの開発支援を行う  
Visionary Invention Support for Intelligent Original Novelties 2045



## プロジェクト概要

- シーズ・ニーズマッチングデータベース構築

既に本学会では、C系会員\*の素晴らしい技術や数々の製品、ソフトウェアが揃っています。それらをfeatureしない手はありません。また臨床現場では常に業務改善が必要な事象（ニーズ）の山がそびえています。何を糸口にどのようなアプローチで、プロセスを進めて解決するのが良いのかわからず困っている現場も大変多いことがわかっています。プロダクトアウトとマーケットイン両者の理念を融合したデータベース構築をします。

- 企業会員とアカデミア会員交流の場の設置（ネットワーキング）

ニーズ・シーズの育成を目的に、学会員や学会会員が所属する大学や研究組織、病院の若手や学生が企業のものづくり現場を見学し、社員との交流の場を設けます。2026年度は、GEヘルスケア・ジャパン株式会社日野本社工場へ訪問を行います。

- 啓発シーズモデルの推進

既に日本医療機器学会では、プロセスケミカルズ安全推進WGが活動しています。本活動の詳細は、次ページにお示ししていますが、本活動のように競合企業が一体となって、医療安全や規格統一を推進する取り組みや萌芽、ニーズを会員から聞き取り、実現するための支援を行います。

- 相談窓口の開設（コンサルテーション）

本委員や会員には、産学連携事業の経験者が多数在籍しています。取組中の産学連携事業についてへの具体的なアドバイスや、ニーズ・シーズマッチングデータベースにおけるマッチングの相談など承る予定です。相談員を募集しています。自薦他薦大歓迎です。ご連絡は、日本医療機器学会産学連携委員会まで（SANGAC@jsmi.gr.jp）。

また全国に展開されているAMED拠点事業とも連携していく予定です。

- 産学連携カタリスト・アドバイザーの育成

契約の締結、知財や特許といった権利に関わることは専門の知識が必要であり、産学連携を進めるに当たって一つの障壁です。実際にはそれ以前にも数々のハードルがあることが知られています。例えば折角の素晴らしい技術を製品化へ転用する過程で資金が枯渇する、人材・市場ニーズの不足により開発が頓挫し製品化へ漕ぎ着けない「死の谷」や実際に製品化したが発売が伸びなかった「ダーウインの海」などと呼ばれる障壁です。それらを解決するには、産学連携に特化した専門家であるカタリストやアドバイザーが欠かせません。

- 産学連携助成金の拡充

研究・開発助成制度が、本学会には既に制定されていますが、今後大幅増額を計画しています。乞うご期待！

- さらなるプロジェクトをまだまだ検討中です。皆様からのご提案も大歓迎です。

---

\*C系会員とは、企業の社員等および関連団体職員のこと。

## 啓発シーズモデル

### 「プロセスケミカル

安全推進WG」 藤田 敏 先生

病院の滅菌供給部門（CSSD）では、再生可能医療機器（RMD）の再生処理において、洗剤、消毒薬、中和剤、界面活性剤、防錆潤滑剤などの各種薬剤（プロセスケミカルズ）が工程ごとに使用されています。これらの使用方法を誤ると、重大な事故につながる恐れがあります。一般家庭においても、台所や浴室で塩素系洗剤と酸性洗剤が混合し、有毒ガスが発生して健康被害を引き起こす事例が知られています。また、洗濯機において洗剤と柔軟剤を誤って投入するなど、日常的なヒューマンエラーも少なくありません。CSSDにおいても同様の事象が潜在的に発生している可能性があります。その実態は十分に把握されていません。医療現場において同様の事象が発生した場合、その影響は極めて大きいと考えられます。

このような背景を踏まえ、医療機器学会は、プロセスケミカルズに関連するトラブルの実態把握と安全意識の向上、ならびに対策検討を目的として「プロセスケミカル安全推進WG」を発足しました。本WGは、洗剤メーカー（3社）、洗浄器メーカー（5社）、外部委託企業（2社）により構成され、競合関係にある企業間で連携しながら、プロセスケミカルズに関連するトラブル事例の収集・分析を行っています。さらに、抽出された課題に対して実行可能な対策を検討するとともに、将来的に求められる安全対策についても議論を進めています。

### 終わりに

産学連携推進委員会は発足し走り始めたばかりですが、皆さんの期待に答えられるようKPIを設け、VISION2045を達成できるよう活動してまいります。

### 委員ご紹介

- 委員長 江島 豊（東北大学病院 手術部・材料部 特命教授）  
副委員長 本田 宏志（株式会社ニチオン 代表取締役 社長）  
委員 小林 武治（大研医器株式会社 開発部 薬事学術情報課 課長）  
高階 雅紀（市立池田病院 病院長）  
高橋 和博（東北大学病院 麻酔科 助教）  
中川 敦寛（東北大学病院 産学連携室 教授、東北大学副理事）  
林 正晃（第一医科株式会社 代表取締役 社長）  
根木 潤（日本光電株式会社 技術開発本部 フェロー）  
渡邊 祐介（藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学講座 准教授）

